

1. はじめに

博物館や美術館などの展示施設を訪れた際、皆さんはどのように作品を見て回りますか？

一通り全ての作品を見回ったら、それだけでその施設の全てを知ったような気持ちになってはいませんか。私たちは、本アプリを通し、ただ見て回るだけではない博物館・美術館の楽しみ方を提案します。

本アプリが重視しているのは、「作品と作品の繋がり」です。一見何も関連なく見える作品同士でも、よく見てみると何か共通点があるかもしれません。そのような共通点に光を当て、作品同士の関連性という観点から展示施設での作品観賞をサポートするアプリが、このFloor→Flow Navigatorです。

2. 機能

本アプリは、Android 3.1 以降を搭載したタブレット端末上で動作する施設観覧案内アプリです。

2-1. フロアナビ機能

フロア内の作品の配置や作品の説明を表示することで、ユーザの施設観覧をサポートします。

さらに、観覧前から気になる作品のチェックリストを作成することもでき、見ておきたかった作品を見逃すことを防げます。



図 1. フロアナビ機能

2-2. リレーションマップ機能

作品同士の関連を浮かび上がらせ、ユーザに広い視野で施設観覧を楽しんでもらう機能です。

各々の作品に対し、その作品に関連する言葉(時代、人物、場所、出来事など)を「タグ」として作品と関連付けます。タグには、施設管理者が予め設定する「固定タグ」と、施設を訪れたユーザが自由に設定できる「ユーザタグ」があります。同じタグが付与されている作品同士は関連があると考え、その数が多いほど関連性が高いとします。

本機能は、このようにして求めた関連度を元に作品同士の結びつきを視覚的に表示します。



図 2. リレーションマップ機能

2-3. コミュニティ機能

同じ施設を訪れたユーザ同士で感想を交流する機能です。作品に対し、ここが良かった、ここが興味深かったなど、コメントを残すことができます。

3. まとめ

皆さんも、Floor→Flow Navigator で新たな視点から施設観覧を楽しんでみませんか？

今まで気づかなかった意外な繋がりが見えてくるかもしれませんよ。

※ 図中の画像はパブリックドメインのものを使用しています。